

○トップレベルのアスリートが求める国民体育大会のあり方

モデル事業など新たな国民体育大会の創造にむけた取り組みが必要

■提言先：政府、地方自治体、日本体育協会、競技団体

今回のヒアリング調査およびプロジェクト会議での有識者の意見では、**現在の国民体育大会はトップレベルのアスリートが競技力を競う大会ではないとの指摘があった。**

理由としては、トップアスリートは国内のリーグ戦やその他の国際大会などを中心に、コンディショニング調整するため、国際大会や日本代表選考と関係のない国民体育大会を目標にして、コンディショニング調整をすることは難しく、パフォーマンスのピークを持っていくことができないからである。さらにはリーグ戦の中断や、年間スケジュールの過密化による競技力向上の妨げになる事例もみられる。

調査では、大会開催をオリンピックイヤーの中間年とする意見や、オリンピックの前年の代表選考競技会などにモデルチェンジするといった意見、ユースオリンピックやオリンピックムーブメントに繋げるためのユースの大会にするという意見もだされた。

いっぽうでマイナーな個人競技や商業化されていない競技では、国民体育大会という、都道府県対抗のシステムがあることで、都道府県に強化予算がつき、強化のための職場（雇用）が創出されるために活動ができているという事例も報告された。**スポーツ文化の振興の視点では国民体育大会の意味も大きい。**

国民体育大会をマイナースポーツ育成の大会と位置づける場合、マイナースポーツが、徐々に自立していくための育成施策を国民体育大会と並行して実施することも必要である。

例えば、地域のスポーツクラブの経営の安定化が図られれば、地域に特有の種目として地域のスポーツクラブで生き残る道も考えられる。全国に展開する総合型地域スポーツクラブが受け皿となるためには、広域スポーツセンターと連携してマイナースポーツのトップアスリートが雇用される仕組みをつくる**モデル事業など新たな国民体育大会の創造にむけた取り組みが必要である。**

